つながるニフレル　Vol.02「アートにふれる」

SERIES　展示やイベントだけでは伝えきれない、ニフレルの人、想い、舞台裏を届けるシリーズリリースです。

美術館の照明と一滴の水から生まれた「およぎにふれる」の舞台裏

魚の色を消したら、“泳ぎ”が見えた。

芸術の秋に知りたい、光と影と一滴の水の物語



「およぎにふれる」展示全景

NEWS	SHOOT	INTERVIEW
11/19 海遊館生まれのフグが“影”デビュー	**公開前の“影づくり”に密着**	**キュレーター取材可**
開業11周年の新展示（予定）	影と波紋・バックヤード（要相談）	開発秘話・新展示の準備

この秋は、生きものを“鑑賞”しよう。

芸術の秋。美術館に足を運ぶように、生きものたちに会いに行く。
そんな楽しみ方を、ニフレルは開業当初から提案してきました。
水族館では、まず名前や解説を読み「答え合わせ」をして次へ進みがち。
一方、美術館では作品そのものとじっくり向き合います。
生きものとも、そんなふうに向き合えないだろうか。その思いが展示づくりの出発点です。

芸術の秋に見たい、ふたつのアート

館の中央に広がる「WONDER MOMENTS」は、光と映像で自然の一瞬を描くデジタルの表現。
一方、「およぎにふれる」は、本物の水と光によるアナログな表現。
同じ「感性にふれる」から生まれた、正反対の手法です。
実は、WONDER MOMENTS の「TRANS」というシーンは、
「およぎにふれる」の透き通った体を持つナマズの仲間「トランスルーセントグラスキャットフィッシュ」がモチーフ。
ふたつのアートは、つながっています。



WONDER MOMENTS



WONDER MOMENTS「TRANS」

WONDER MOMENTS by Takahiro Matsuo

ABOUT　そもそも、ニフレルとは

大阪・EXPOCITY にある「感性にふれる」をコンセプトとした、生きているミュージアム。
水族館・動物園・美術館の枠にとらわれず、生きものとの新しい出会いを届けています。

次ページでは、「影」の発見と、一滴の水から始まった実験を紹介します。→ P2

「泳ぎ」だけを、見せたかった。

「およぎにふれる」誕生までの試行錯誤



中川秀人さん

なかがわ ひでと　｜　ニフレル キュレーター

開業前は海遊館でジンベエザメやアシカなどの飼育員を歴任し、その後、設備チームに在籍。
展示設備づくりの知見を生かし、企画・展示開発に関わる。
「およぎにふれる」の開発メンバーとして展示づくりに携わる。

中川さんたち開発メンバーが挑んだのは、魚ではなく「泳ぎ」そのものを見せる展示でした。

01 同じ「泳ぐ」でも、こんなに違う。

2020 年 2 月 28 日にオープンした「およぎにふれる」。
注目したのは「遊泳の多様性」。ヒレを動かす、体をくねらせる、漂うように進む。
生きものによって異なる泳ぎそのものを見せたいと考えました。

02 答えは、水槽から飛び出した“影”にあった。

実験を重ねるなかで、水槽の横に、
魚の影が飛び出していることに気づきました。
色や模様が消えると、泳ぎ方が際立つ。
それは、田んぼで見たオタマジャクシの
影の記憶とも重なるものでした。
さらに影は水槽の外にも伸び、生きものと
私たちがいる空間をつなぐ表現になりました。



ボラの影に、思わず手を伸ばす来館者

**「泳ぎ方をうまく見せる方法が、なかなか見つからなくて。
そんな中で、水槽の横に影が飛び出しているのに気づいたんです。
あの発見がなかったら、今の形にはなっていないと思います」**

― 中川秀人さん

03 始まりは、たった一滴の水。

小さな水槽で一滴の水を落とすところから実験が始まりました。
水槽が小さいと波紋の動きが速くなりすぎるため、約 1 メートル四方まで水槽を大きくし、
水深や光の角度を変えながら繰り返し検証しました。

04 自然の美しさを、アナログで。

波紋を映像に置き換える案もありましたが、本物の水滴と光を採用。
魚の影と波紋が重なりすぎないよう、展示空間の見せ方もデザイナーと一緒に考えました。

**こぼれ話　実験用水槽には最初、葉っぱを入れていたそうです。
生きものを入れてみると泳ぎ方が強調され、光に照らされた本物の姿も際立ちました。**

次ページでは、光と影を形にした展示の仕掛けをご紹介。 → P3

水族館に、美術館の照明!?

光・影・波紋でつくる“およぎ”の空間

光を当てれば完成、ではなかった。

「およぎにふれる」の 11 の水槽のうち、
9 つが影で泳ぎを見せる水槽です。
生きものの姿と影の両方が美しく見えるよう、
光の位置や角度を繰り返し検証。
水槽の枠が影に入らないよう調整し、
暗い空間でも来館者が歩ける明るさを探りました。

決め手は、何気なく試した小さなライトだった。



スポットライトが、魚の影を床に映し出す

POINT 01｜光

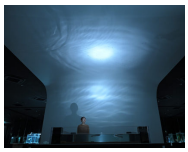
照明の専門業者による大型照明では、思い描いた影にならず、
あるイベントで手に入れた小型 LED を
何気なく試したところ、最もきれいに映りました。
展示用に調整した照明は、
結果的に美術館でも使われるタイプに。
8 つの水槽は側面から 1 灯で照らし、
大きな水槽は正面用と上用の 2 灯を組み合わせています。

POINT 02｜影

色や模様が消えることで、ヒレの動きや体のくねりが
くっきり見えます。泳ぐ位置や向きによって、
魚より大きな影が壁や床に伸びることもあります。

POINT 03｜波紋

3 か所から本物の水滴を落とし、重なり方と
間隔を細かく調整。少しずつ大きくなって
落ちる水滴には揺らぎがあり、同じ模様は
二度と生まれません。



POINT 04｜生きもの

どんな影が現れるかは、生きものの動き次第。
泳ぐ場所や動き方はそれぞれ異なるため、
影がきれいに出るよう、展示を少しずつ調整しています。

「生きているアート」――同じ景色は二度とない。

影にしたら、クラゲの“拍動”が見えた。

サカサクラゲの傘が縮む「拍動」は、
実物よりも影で見る方が分かりやすいことも。

> **「テストしていたら、たまたま影が出たんです。**
> **『うおっ』となって、これは絶対に置こうと」**

― 中川秀人さん



こんな影が人気です

- コンビクトブレニー：クネクネと泳ぎ、時にはバックもするユニークな影
- トランスルーセントグラスキャットフィッシュ：透明な体が、影になるとくっきり浮かび上がる
- ジーベンロックナガクビガメ：SNS でも話題に。足を止めて見入る人が多い影



光の筋と、床に伸びる影

次ページでは、新しく仲間入りする生きものと展示準備の舞台裏へ。 → P4

11歳のニフレルに、新しい“泳ぎ”がやってくる。

11月19日、スミツキイシガキフグ新展示予定



新しい仲間の“泳ぎ”を、どう見せる？



松岡亮治さん

まつおか りょうじ　｜　ニフレル キュレーター

2020年の「およぎにふれる」
立ち上げに参加。
7月1日に魚類担当へ復帰し、
現在はスミツキイシガキフグの
展示準備を担当。

「およぎにふれる」誕生時と同じ「泳ぎをどう見せるか」という問いに、今度は新しい仲間とともに向き合っています。
「およぎにふれる」に加える以上、問われるのは「この生きものの泳ぎ方の、どこが面白いのか」。
その答えを探すところから準備は始まります。

膨らんだ姿は、どんな影になる？

バックヤードでの撮影中には、体を膨らませる場面もありました。
展示中も偶然膨らむ可能性はありますが、見られるとは限りません。影の見え方も、生きものの状態次第です。

**「撮影中に、スーッと体を膨らませたことがあるんです。展示水槽で膨らんだら、その影はどう映るのか。
期待しながら、一匹一匹の泳ぎ方を観察しています」**

― 松岡亮治さん

隠れ場所も、餌の与え方も調整。

バックヤードでは隠れ場所を増やして、過ごしやすい環境を整えています。
給餌棒で深めの場所に餌を運ぶと、魚がそこへ泳いでいく。餌の位置で、泳ぐ場所や影の出方を探っています。
食べ残しが余計な影にならないよう、量にも気を配ります。

新しい生きものが、また新しい景色をつくる。

アートは生きものを飾るためではなく、
その魅力を別の視点から感じてもらうためのものです。

ニフレル館長からのメッセージ

**大人になるにつれ、私たちは身の回りのことを「普通」「当たり前」として、
通り過ぎてしまうことが増えていくように思います。
知識や先入観を少し横に置き、時間を忘れて「およぎにふれる」の空間に身を置いてみる。
すると、これまで目に留まらなかった「不思議」に出会えるかもしれません。
不思議に思い、立ち止まり、心が動く。
そんなひとときが、毎日の暮らしを少し豊かにしてくれるのではないでしょうか。**

― 村上寛之 館長

メディアの皆さまへ

撮れる	聞ける	使える
・影と波紋の空間 ・照明、水滴の仕掛け ・展示準備（バックヤードは要相談） ・WONDER MOMENTS の映像空間	・なぜアートなのか ・影と波紋の実験 ・小型 LED との出会い ・サカサクラゲの影の“偶然の発見” ・新展示の舞台裏	・展示ゾーン全景 ・魚の影、波紋 ・サカサクラゲ ・新展示の写真・映像

取材・撮影の内容や日時は、事前にご相談ください。
※掲載写真・映像素材の提供については個別にご相談ください。
※新展示は11月19日開始予定。生きものの状態により変更の場合があります。

本件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
（株）海遊館 ニフレル事業部　PR・広報担当　西前、塩谷
TEL：06-6876-2204（平日 9:00〜17:30）　MAIL：nifrel.pr@nifrel.jp